

雑誌『丁酉倫理会倫理講演集』総目次（Ⅰ）

大木 康充

はじめに

1896年に開かれた宗教家懇談会をきっかけに、宗派にかかわらず日本の倫理問題を討議するための研究会開催を牧師の横井時雄が呼びかけ、翌97年（丁酉年）、哲学者の大西祝や宗教学者の姉崎正治、岸本能武太らがこれに応じ「丁酉懇話会」が結成された。1900年1月に「丁酉倫理会」と改称され、同年5月13日から機関誌『丁酉倫理会講演集』が創刊された（1904年1月の第16以降は月刊）。同誌は1903年2月（第11）から『丁酉倫理会倫理講演集』、1946年5月（第520輯）から『丁酉倫理』、1948年1月（第536輯）から『倫理』に改題されたが、第二次大戦後には同会の主要メンバーが相次いで物故したことなどから、1949年3月の第548輯をもって廃刊となった。

丁酉倫理会には後に加藤弘之・三宅雪嶺・井上哲次郎・桑木厳翼・田中王堂・中島徳蔵ら哲学者や倫理学者ほか、大島正徳（教育学者）、常盤大定（仏教学者）、小柳司気太（中国学者）、遠藤隆吉（社会学者）、千葉鉦蔵（文学者）など様々な学問領域からの参加者がみられ、その講演・執筆内容も倫理や哲学、宗教の問題にとどまらず国際関係・政治・社会・教育・文芸など多岐にわたり、また会員同士の論争も活発に繰り広げられた。

このように同誌には明治後期から第二次大戦後までの長期にわたり著名な哲学者ほか多彩な知識人たちの論文が掲載され、そこでは各時代を徴表する事件や出来事、思潮に関する幅広い研究・討議が展開されている。この点、思想的にも重要な意義を有する史料といえるが、管見の限りその総合的な研究は殆んど進んでいないのが実状である。同誌の研究に着手する上で大きな問題となるのは、総548輯に及ぶ膨大な分量の雑誌でありながら、その総目次が公表されていない点であろう（不完全ながら第400輯に1～400輯、500輯に401～500輯までの目次が収録されている）。

そこで本資料では、まず第1～150輯までの目次を紹介する。

凡例

- 一、明らかな誤字・脱字は訂正した。
- 一、字体は一部を除き（欧州の「洲」など）原則として旧字を新字に改めた。
- 一、雑誌番号（「老」と「一」など）と助数詞（「輯」の有無）は表紙の印刷どおり記載した。
- 一、「新刊」や「応答」などの項目は原則として省略した。
- 一、採録者による注記は（*）であらわした。

『丁酉倫理会講演集』

第一（1900年5月13日）

丁酉倫理会の略史

開会の趣旨	姉崎正治
天上天下唯我独尊	中島徳蔵
方今倫理界の二大急務	浮田和民
教育と倫理修養	横井時雄
健全なる思想とは何ぞや	桑木徹翼

第二（1900年6月28日）

丁酉倫理会の略史（続）

人の天分	高山林次郎
方今倫理界の二大急務（前回の続き）	浮田和民
外山先生を追懐す	姉崎正治
欲望論	高島平三郎

第三 (1900年8月9日)

丁酉倫理会の略史

勇猛心	蟹江義丸
我国民性の一大欠点	吉田賢龍
人としての道徳	岸本能武太
社会制裁と個人の道徳	藤井健治郎
個人及社会的報酬	安部磯雄

第四 (1900年10月13日)

丁酉倫理会の略史

行為に於ける智識の位置	横井時雄
道徳の範圍	雀部顕宜
現今の倫理及び宗教問題に就て	元良勇次郎
武士道に就て	宮田脩

附録

登張信一郎君に答ふ (吉田賢龍)

第五 (1900年12月21日)

丁酉倫理会の略史

時代精神とは何ぞや	田中喜一
倫理修養とは何ぞや	野田義夫
知と行	松山直蔵
徳育の効力	塚原政次
倫理学と経済学との關係に就きて	千葉鋤蔵

第六（1901年4月9日）

故大西博士の肖像

丁酉倫理会の略史（続）

故文学博士大西祝君を追悼す…………… 横井時雄

調和的発達の必要…………… 高島平三郎

故丁酉倫理会員黒田善三郎君を追悼す…………… 岸本能武太

雑録

倫理の立脚地（黒田善三郎）

時潮

故福沢先生を悼む辞/公德と呼ぶ声/中等教員検定試験法

（*「雑録」、「時潮」、「新刊批評」（省略）の項目登場）

第七（1901年6月15日）

故黒田善三郎君肖像

人生の危機…………… 蟹江義丸

ニイチエ対トルストイ主義…………… 中島徳蔵

克己の価値…………… 桑木徹翼

雑録

大西祝君を追懐す（姉崎正治）

時潮

公德論の終局/道德生活の貴まるる兆/武士道論の盛唱/『精神界』/最新新聞雑誌

倫理道德一覽

（*「出版界」（省略）、「応答」（省略）の項目登場）

第八（1901年10月7日）

社会進化の目的に就て…………… 元良勇次郎

政治的罪惡…………… 千葉鉦蔵

釈迦と基督…………… 吉田賢龍

道德の両面 藤井健治郎
現時の二大問題 横井時雄

時潮

修身科の時間数を増加すべし/由比氏の中等修身教案/刺客論/德育の教師として体操教師の養成を促す (宮田脩)

第九 (1902年8月30日)

道德の根柢としての良心 (研究会に於て) 野田義夫
礼儀の進化 矢島錦藏
人生の価値 宮田脩
動機と結果 塚原政次

雑録

倫理教育を有効ならしむる一法 (宮田脩)

第十 (1903年1月1日)

儒教管見 松山直藏
児童研究より見たる性善悪論 高島平三郎
ニイチエの説に就きて 中島徳蔵

時論

新聞紙の道德/感情の訓練/国家の濫用者と叛乱の主動者/小説禁制の無効 (宮田脩)

(*「時潮」から「時論」に項目変更)

『丁酉倫理会倫理講演集』

第拾壹（1903年2月16日）

講演

ニーチェの『ゾアラトウストラ如是説』を読む……………	文学博士	桑木巖翼
道学先生とは何ぞや……………	文学士	蟹江義丸
道学先生の任務……………		中島徳蔵

雑録

哲学館事件及余が弁解（中島徳蔵）

（*『丁酉倫理会倫理講演集』に改題。「講演」の項目登場。肩書紹介）

第拾貳（1903年4月15日）

討論

伊庭想太郎に対する道徳的判断

提出者……………	文学士	蟹江義丸
討議者（加藤弘之・吉田熊次・蟹江義丸・桑木巖翼・井上哲次郎・中島徳蔵・藤井健治郎）		

講演

道徳上より見たる女……………		宮田脩
自然科学の智識に基ける唯心論……………	文学士	朝永三十郎

雑録

哲学館事件と諸新聞雑誌及び本会々員

第拾参（1903年6月15日）

講演

吾人が人類たるの資格と国民たるの資格に於ける矛盾……………	文学博士	加藤弘之
道徳の進歩に関する論争……………	文学士	吉田熊次
欧米に於ける道徳及宗教の現況……………	文学士	下田次郎

雑録

ムイアヘツド氏より神戸クロニケル新聞に寄せたる弁妄書及其訳文

時論

近時に於ける道德界の汚点(中島生)/形式と道德(し、み生)/仏教者の考違(な、と生)/離婚論(な、と生)/古と今(霓霞生)/The new woman(珍柄婦人)/当今出版物の読み方(捕風生)

第拾四(1903年8月15日)

講演

人物経済……………文学博士 中島力造
男女交際……………高島平三郎
道德の進歩に関する論争(続き)……………文学士 吉田熊次

時論

藤村生の自殺/自殺者の取扱(中島生)/帝国文学(道学先生)/固なる哉宗教家/倫理と宗教(な、と生)/浮世(非仙非俗山人)/真の成功(中島生)

間間録

鳳語(一)(空寛子)/一杯奇言(冷笑子)/榻上放語(KF生)

(*「間間録」の項目登場)

第拾五(1903年10月10日)

講演

社会主義に就て……………文学士 吉田静致
男女交際論……………中島徳蔵

雑録

寺院と宗教との復活/図書館/講談会の普及/浮誇の学風等

間間録

矛盾録(我羊生)/鳳語(二)(空寛子)/守生本能(天橋道人)

第拾六（1904年1月15日）

講演

- 男女の交際に就きて……………文学士 下田次郎
複雑と一致……………横井時雄
青年訓一則……………文学博士 姉崎正治

雑録

- 大塚夫人の男女交際論評序（中島生）/男女交際論を読む（大塚楠緒子）/新青年の意気如何（中島生）/しこ草（一）（空寛子）/漫録数条（無適生）/口実的崇拜似而非的崇拜（吉田静致）/所謂哲学館事件と菊池前大臣（中島徳蔵）/間々録（捕風生）

（*「新刊」（省略）の項目登場）

第拾七（1904年2月15日）

講演

- 厭世主義に就て……………文学士 藤井健治郎
恋愛に就て……………法貴慶次郎
青年訓一則……………浮田和民

雑録

- なまけ書生を誡むる小言（我羊生）/新春学界漫言（い、て生）/戦闘熱と虚業熱（い、て生）/戦争の倫理的意義（中島生）/愚仏庵日記抄（寮の主人）/間々録（捕風生）/枕肱余語（雑華学人）

第拾八（1904年3月15日）

講演

- 姉崎正治君著『復活の曙光』を読む……………田中喜一
科学と修養……………文学博士 元良勇次郎
戦争に関する道德……………記者

雑録

しこ草(二)(空寛子)/漫録(無適生)/孤憤録(白眼生)/恋愛と戦争(い、て生)/『時代思潮』/宗教は超倫理?/枕肱余語(雑華学人)/愚仏庵日記抄(庵の主人)/此の皇帝にして此使臣あり(静の舎主人)/間々録(捕風生)

第拾九(1904年4月15日)

講演

恋愛の道徳的価値..... 宮田脩
人生の理想と世界の根柢..... 藤井健治郎
露国の国際道徳及国際法律的行為..... 文学博士 加藤弘之
人に答ふる書..... 文学博士 桑木巖翼

雑録

男女交際(大塚楠緒子)/慈善私議(聴雉荘主人)/桂花書屋随筆〔其一、ハアバアト・スペンサアとヂオヂ・エリオツトと(上)〕(桂花書屋主人)/売れぬ学問(同情生)/間々録(捕風生)

第貳拾(1904年5月15日)

講演

ワシントン対ナポレオン..... 文学士 野田義夫
家族制と愛..... 文学士 吉田静致
男女交際論..... 文学博士 井上哲次郎

雑録

お役人根性(傍観生)/漫録 女学生裸体問題(無適生)/寛容の精神(い、て生)/死は苦しきか(中島生)/枕肱余語(三)(雑華学人)

第貳拾壹（1904年6月15日）

講演

- 男女交際論（完結）…………… 文学博士 井上哲次郎
仏教倫理一斑…………… 文学博士 村上專精
日本倫理研究手引…………… 中島徳蔵

雑録

- 桂花書屋隨筆〔ハアバアト・スペンサアとデオヂ・エリオツトと（下）〕（桂花書
屋主人）/聴雉荘閑話（荘の主人）/哲学の問題（い、て生）/醜草（三）帰り途
（空霓子）/間々録（捕風生）

第貳拾貳（1904年7月15日）

講演

- 人格と天才…………… 文学博士 元良勇次郎
何の為に戦ふか…………… 文学士 小林一郎
仁愛の化身小野太郎翁…………… 文学士 野田義夫
所謂黄人禍…………… 文学博士 加藤弘之

雑録

- 蟹江博士を弔す（桑木巖翼）/武功に伴ふ文運移植の啓導（無適生）/旃曼陀羅（静
の舎主人）/アメリカの男女共学制度の利害論一斑/蟹江博士を憶ふ（愚仏庵）/
ギューリック氏の日本人男女間の愛情論（記者訳）/間々録（捕風生）

第貳拾参（1904年8月15日）

講演

- 労働と倫理…………… 文学博士 中島力造
『経済上解釈』…………… 千葉鉦蔵
生存主義の道德…………… 浮田和民
青年須らく気炎あるべし…………… 中島徳蔵

雑録

酢漿草（大塚楠緒子）/戦時広島初見（其一）（我羊生）/醜草（四）汽車の中（空
寛子）/男女交際会案（捕風生）/故蟹江博士遺子教育資金募集

第貳拾四（1904年9月15日）

講演

宗教と道德の進歩……………文学士 吉田賢龍
宗教と超道德……………文学博士 桑木巖翼
進学の喩……………文学士 野田義夫

雑録

戦争と哲学者（雑華学人）/青年の弾性（甲溪生）/出征（聴雉子）

第貳拾五（1904年10月15日）

講演

簡易高尚なる生活……………文学士 太田秀穂
倫理上の一大疑点……………文学博士 加藤弘之
加藤博士の一大疑点に就て……………文学博士 井上哲次郎
米国に於ける模範的一家庭……………文学博士 松本亦太郎

雑録

生命だけは大切にせよ（な、と生）/獣面人心（聿水閑人）/戦時広島初見（其二）
（我羊生）/男女交際論の一反響（杏蔭逸史）/其他

第貳拾六（1904年11月15日）

講演

宗教と道德との関係……………中島徳蔵
諸人種男女の関係……………理学博士 坪井正五郎
加藤博士の倫理上の一大疑点を読む……………文学博士 中島力造

雑録

浮田対佐藤説（中島生）/何を以て忠勇に酬めん（捕風生）/宗教と道德（聿水漁夫）/修養の方針に就きて（雷軒生）

第貳拾七（1904年12月15日）

講演

心身関係と修徳法……………高島平三郎
個人と社会……………文学士 吉田静致
諸人種男女の関係（完結）……………理学博士 坪井正五郎
『新曲浦島』を讀みて……………文学士 藤井健治郎

雑録

楽天論（聿水漁夫）/東京見物と哲学（静の舎主人）/競争心の利弊（雷軒生）/
戦時広島初見（其三）（我羊生）

第貳拾八（1905年1月15日）

講演

国勢勃興の機運……………横井時雄
倫理上二三の實際問題……………文学士 沢柳政太郎
女子教育談……………文学博士 箕作元八
休養の倫理……………文学博士 中島力造
国家的道德と世界的道德……………文学博士 井上哲次郎
『笑』の醇化……………文学士 朝永三十郎

雑録

中島兄に与ふる書（桑木巖翼）/泰西名家談叢（黙識斎）/善謔録（蛇足道人）/
月夜の黙想（雑華学人）/不平家に与ふる書（我羊生）/シツシングの寓言（大塚夫人訳）/向上会/歳晚雑感（愚仏庵主人）

第貳拾九 (1905 年 2 月 15 日)

講演

東洋に於ける女子の地位…………… 文学博士 村上専精
神の科学的認識…………… 牧野啓吾
宗教と道德…………… 文学士 朝永三十郎

雑録

泰西名家談叢 (黙識齋) / 成功対修養 (雷軒生) / モンナ・ワッナ (雑華学人)
/ 通俗新童子問 (愚仏庵主人) / 敬神論 (聿水閑人) / 墓所の改良 (聿水閑人)

第参拾 (1905 年 3 月 15 日)

講演

一二の実際問題…………… 文学博士 姉崎正治
寄宿舎中心の男女教育…………… 中島徳蔵
『新曲浦島』の人生観…………… マスタア・ヲブ・アアツ 千葉鉦蔵

雑録

井上博士の『人文史上より見たる日本戦捷の原因』/ 樹下の問答 (聴雉子) / 中学校教授要目改正意見の数々 (愚仏庵主人) / 偏狭の学風 (甲溪学人) / モンナ・ワッナ (下) (雑華学人) / 天籟地響 学生問題に就て (蘊外)

第参拾壹 (1905 年 4 月 15 日)

講演

女性と人格の観念…………… 宮田脩
道德と芸術…………… 文学士 吉田静致
レツキー氏の現代及び将来道德の大勢…………… 中島徳蔵

雑録

小乗的思想 (甲溪生) / むきがき (むてき) / 通俗新童子問 (愚仏庵主人) / 至誠につきて (い、て生)

第参拾貳（1905年5月15日）

講演

- イブセンの「ノラ」に就て……………文学博士 桑木厳翼
人生観……………文学士 深作安文
帝国主義の政策と道徳……………浮田和民

雑録

- 中学校の訓育につきて（野田義夫）/無題録（甲溪生）/独逸倫理学界消息（吉田熊次）/通俗新童子問（愚仏庵主人）/我等の催した家族会/家族会に就て（樋口秀雄）

第参拾参（1905年6月15日）

講演

- 蟹江君を憶ふ……………文学博士 桑木厳翼
所謂「天然科学派」の書に就きて……………隈本有尚
人生観（承前）……………文学士 深作安文
『孔子研究』を評す……………中島徳蔵

雑録

- 故蟹江君追懐録/故蟹江博士を憶ふ（深作安文）/追懐録（吉田賢龍）/追懐録（中島徳蔵）/故文学博士蟹江義丸君小伝（桑木厳翼）/無題録（甲溪生）/泰西名家談叢（黙識斎）

第参拾四（1905年7月15日）

講演

- 女学生の修養……………文学博士 井上哲次郎
欧米に於ける男女の関係……………隈本有尚
『孔子研究』を評す（前号の続き）……………中島徳蔵

雑録

世の武士道論（無適生）桂華書屋雑鈔（桂華書屋主人）/戦争中に於ける将士の意識情態（雑華学人）/社会教育上より見たる醜文学（刀水生）/泰西名家談叢（黙識齋）

第参拾五（1905年8月15日）

講演

東洋哲学に於ける自我の觀念…………… 文学博士 元良勇次郎
ストア哲学と武士道…………… 文学士 吉田賢龍
帰朝雑感…………… 文学士 塚原政次
男女交際に就て…………… 手島精一

雑録

国際用語新按（桑木巖翼）/丁酉倫理会記事/処世難（雷軒）/泰西名家談叢（黙識齋）/伊藤せい子夫人を訪ふ

第参拾六（1905年9月15日）

講演

真善美を論じて倫理学上の迷見に及ぶ…………… 文学博士 加藤弘之
恋情及結婚制度…………… 隈本有尚
ホッブスの名著「レヴアイアサン」中抄訳…………… 文学士 野田義夫
東洋哲学に於ける自我の觀念（前号の続）…………… 文学博士 元良勇次郎

雑録

枕肱余語 停軍場と人生（雑華学人）/如何にして中等教員修身科の受験を準備せんか/剛ならんか将た柔ならんか（雷軒）/無題録（秋風子）

第参拾七（1905年10月15日）

講演

- 新聞紙第三面論…………… 浮田和民
過渡的道德の三方面…………… 小柳司気太
倫理学の現在と将来…………… 文学士 吉田静致

雑録

- 隈本氏の所説を読む（畔柳郁太郎）/畔柳君に答ふ（中島徳蔵）/肉の日本人（雷軒）/男女交際論と現今の世態（雑華学人）/泰西名家談叢（黙識齋）

第参拾八（1905年11月15日）

講演

- 希臘人文の特性を論じて我邦人文の将来に及ぶ…………… 文学士 朝永三十郎
法則と規範——真と善…………… 文学博士 桑木巖翼
ラボック氏の処世論…………… 中島徳蔵

雑録

- 漫言一則（秋風子）/大谷派の脱宗徒/登張竹風君に答ふ（中島生）/時事漫言（い、て）

第参拾九（1905年12月15日）

講演

- 明治式の独立自由…………… 中島徳蔵
外人より見たる武士道…………… 文学博士 元良勇次郎
社会変遷の四様式…………… 文学士 樋口秀雄
病身なる厭世少年に与ふる書…………… 文学士 野田義夫

雑録

- 真面目（白面子）/富に処するの道如何（雷軒）/清見潟に於ける樗牛（捕風生）
/我が在来倫理思想発達の瞥見（い、て）/村上博士の行条五則（中島生）/第二
回家族会記事

第四拾 (1906年1月15日)

丁酉会スミレ会合併第二回家族会 (写真)

講演

- ボォトミイ氏著『英国国民』を読む…………… 文学博士 元良勇次郎
倫理及び宗教の関係論…………… 文学博士 村上專精
孤独生活…………… 文学博士 桑木啟翼
仏教と道德 (併て宗教と道德との関係に及ぶ)…………… 文学博士 松本文三郎
日本に於ける徳教の位置…………… 文学博士 井上哲次郎

泰西思潮

大学教育の本義 (ジェツブ)

雑録

- 本会研究会記事/所感 (秋風子) /自由に処するの道如何 (雷軒) /論語問評 (小柳司気太) /『イワンの馬鹿』を読む (宮田脩) /採長補短 (鞍月生) /天籟地響 (*「泰西思潮」の項目登場)

第四拾壹 (1906年2月15日)

講演

- 仏教と道德 (完)…………… 文学博士 松本文三郎
倫理と宗教との関係 (其二)…………… 文学博士 村上專精
マホメツトの倫理観…………… 宮田脩
ボォトミイ氏著『英国国民』を読む…………… 文学博士 元良勇次郎

泰西思潮

実用主義と人道主義 (シルラー)

雑録

- 本会記事/「男女と天才」を読み (空霓子) /精神界の新流行 (捕風生) /教狂につきて (雷軒)

第四拾貳（1906年3月15日）

講演

- 倫理及び宗教の關係論……………文学博士 村上專精
仏教と天然……………文学博士 姉崎正治
儒教の価値……………小柳司氣太

泰西思潮

女子教育論（ボサンケー）

雑録

本会記事/思想界の新活動/検定試験につき文部省に望む（中島生）/立ちぎき（空
霞子）

第四拾参（1906年4月15日）

講演

- 人格論……………文学士 深作安文
現今の思想界に就て……………宮田脩
超世脱俗……………文学博士 桑木巖翼

泰西思潮

心意は何故に肉体を有するか（モンターギユ）

雑録

婦人問題（紅蓼生）/泰西名家談叢（黙識齋）/倫理教育雑感（白面子）/修養の
一法（捕風生）/漫録数則（こ、し子）

第四拾四（1906年5月15日）

講演

- 超世脱俗（承前）……………文学博士 桑木巖翼
真と善——自然法と道德法……………中島徳蔵
青年男女の交際……………文学博士 三宅雄二郎
同……………浮田和民

泰西思潮

青春期の事実及び問題 (エンジェル)

雑録

本会記事二条/良人選択訓 (紅蓼生) / 名誉 (聴雉子) / 年少男女の哲学的煩悶 (雷軒) / 大覚につきて

第四拾五 (1906年6月15日)

講演

愛国心の二種類	……………	文学博士	吉田静致
スピノザの沈勇	……………	文学士	吉田賢龍
男女共学に就て	……………	文学士	溝淵進馬

泰西思潮

帝国主義と女人との関係 (ライヒ) (千葉鉦蔵抄訳)

雑録

本会記事/第三回家族会記事/知識の食傷 (雷軒) / お嫁以上の着眼 (捕風生) / 先づ品性を修養せよ (赤城山人) / 哲学に就ての過慮 (非仙非俗生)

第四拾六 (1906年7月15日)

講演

英国民の特性	……………	文学士	下田次郎
無我愛即有我愛	……………	文学博士	加藤弘之
愛国心の二種類 (完)	……………	文学士	吉田静致
ドンキホーテ式とハムレット式 (現代の思潮に就て)	……………	文学士	朝永三十郎

泰西思潮

ソッヒイ・ブラヤン女子の「女らしき理想」(千葉鉦蔵約説)

雑録

本会記事/シエルドン博士の講演/片々録 (秋風子) / 青年の意気 (雷軒) / 所謂婦徳と片輪道徳 (宮田脩) / 観劇小言 (空霓子)

第四拾七（1906年8月15日）

講演

- 現今の欧洲道德…………… 文学士 大塚保治
ドンキホーテとハムレット式（現代の思潮に就て）…………… 文学士 朝永三十郎
エマソン氏の報償論…………… 文学士 大谷正信

泰西思潮

永世の概念（ロイス）

雑録

- 本会記事/旅窓漫録（愚仏庵主人）/所謂婦徳と片輪道德（宮田脩）/文部大臣の訓令に就て（余計生）/良人選択訓（紅蓼生）

第四拾八（1906年9月10日）

講演

- フレデリツキ・ハリソンの「ハアバアト・スペンサア論」
…………… マスター・ラブ・アアツ 千葉鉦蔵
今後の倫理と宗教との関係如何…………… 文学博士 中島力造

泰西思潮

フエリクス・アーノールド氏の『所謂快樂論者の逆論』

雑録

- 国民の発展と其驕傲心（曙夢生）/道德と文芸との関係（藤華亭主人）/滿韓修学旅行（雷軒）/悪運（中島生）/授爵の範圍拡張すべし（捕風生）

第四拾九（1906年10月10日）

講演

- カルマン氏著「帝国主義の倫理」を読む…………… 文学士 深作安文
日本の世界に提供したる問題…………… 文学士 友枝高彦
実業上の成功秘訣論…………… 中島徳蔵

泰西思潮

米国最新学風の一著述（理性の生活）

雑録

社会問題管見（菊軒主人）/学の用（向陵生）/凱旋門は一時的たるべし（朝永生）
/論孟の一面観（愛亭生）/京都より（空電子）

第五拾（1906年11月10日）

講演

趣味と技術との関係……………文学博士 元良勇次郎
道徳と自然（附規範と法則）……………文学士 吉田静致
カルマン氏著「帝国主義の倫理」を読む（完）……………文学士 深作安文

泰西思潮

ラツド博士の「宗教哲学」

雑録

本会記事/第四回家族会/そぞろ言（寒泉生）/国際間の道徳（鞍月生）/矛盾せる
言行（雷軒生）/明道随録（櫻洲生）

第五拾壹（1906年12月10日）

講演

カントの倫理説と其性格……………文学士 北沢定吉
イドーラ論……………文学士 吉田賢龍
道徳と自然（附規範と法則）……………文学士 吉田静致

泰西思潮

ハツブグード氏米国実業界に需要せらるる学生の資格

雑録

本会記事/演劇熱の勃興（雷軒生）/そぞろ言（其二）（寒泉生）/明道随録（櫻洲
生）/人さまざま（愛亭生）/天籟地響

第五拾貳（1907年1月10日）

講演

学術研究と国家	文学博士	松本文三郎
倫理と宗教	文学博士	井上哲次郎
老科学者の自殺	文学博士	桑木厳翼
簡易生活の本義		増野悦興
疑惑と信念	文学博士	元良勇次郎

泰西思潮

ヘンリー・スタートが新著「主人格上観念論よりして自我実現説派の諸家を評す」の紹介（擁書生）

雑録

本会記事/万国倫理同盟会/藤井愚仏庵主独逸便/家庭内の革命児/明道随録（櫻洲生）/国際的道德とローゼンベルト（鞍月生）/そぞろ言（其三）（寒泉生）

第五拾参（1907年2月10日）

講演

疑惑と信念（続）	文学博士	元良勇次郎
清国に於ける邦人の教育事業	文学士	樋口秀雄
文芸と教育		高島平三郎
文芸と道德		宮田脩

泰西思潮

純正哲学は科学か美術か（ユアー）

雑録

教員検定試験の新規定/そぞろ言（四）（寒泉生）/事業と其品性（雷軒生）/一懺悔女との問答/北京見聞録其一（無適生）

第五拾四 (1907年3月10日)

講演

宗教と人格……………文学博士 姉崎正治
高瀬武次郎君の陽明学新論を読む……………文学士 遠藤隆吉
倫理と宗教……………文学博士 井上哲次郎
不死の倫理的意義 (シラー氏著ヒューマニズムの一章)……………ふ、や、

泰西思潮

一般人民は余が協同者なり (カルネギー)

雑録

本会記事/前号一懺悔女に対する解答疑義 (高橋慶蔵) / 文芸と道德及び宗教 (雷軒生) / そぞろ言 (五) (寒泉生) / 義務の福音 (向陵生) / 天籟地響/孔子祭典会規約

第五拾五 (1907年4月10日)

講演

文芸と道德……………中島徳蔵
制裁論……………文学士 三輪田元道
吾人の宗教的経験と道德との関係……………文学博士 村上专精
倫理と宗教 (承前)……………文学博士 井上哲次郎

泰西思潮

科学と具体的経験 (ホルランヅ)

雑録

本会記事/第五回家族会/片々録 (無名氏) / 中等程度の修身教科書 (北沢定吉)

第五拾六 (1907年5月10日)

講演

個人主義の倫理……………文学士 紀平正美
宣命中に現はれたる道德観念……………文学博士 芳賀矢一

遠藤君に答ふ（陽明学新論の批評に就て）…………… 文学博士 高瀬武次郎
明治の教育と国民道徳…………… 文学士 野田義夫
自然の教訓…………… 高島平三郎

泰西思潮

ブーセツ教授の『基督』（寒泉生）

雑録

本会記事/対ブース大将偶感（雑華学人）/明治四十年二月廿二日夜、伯林の客舎
に於いて）（藤井愚仏）

第五拾七（1907年6月10日）

講演

人と神とのペルソナ…………… 文学博士 姉崎正治
高瀬博士の答弁を読む…………… 文学士 遠藤隆吉
歴史的宗教対純粹宗教…………… 文学士 北沢定吉
明治の教育と国民道徳…………… 文学士 野田義夫
個人主義の倫理（承前）…………… 文学士 紀平正美

雑録

本会記事/太陽記者に答ふ（中島生）/天籟地響（高橋鷹蔵）/有無合体一致論（小
寺義一）

第五拾八（1907年7月10日）

講演

都会の膨張…………… 文学士 小林一郎
人生三面観…………… 文学士 大島正徳
啓蒙的精神と其反動…………… 得能文
清教徒的生活…………… 文学士 雀部顕宜

泰西思潮

ルーズヴェルト氏の大家族論

雑録

本会記事/何ぞ無責任なる自殺者の多きや(捕風生)/土屋氏の日本宗教史につきて(雑華学人)/『霞』事件(道学先生)

第五拾九(1907年8月10日)

講演

道徳的満足の感情に就て……………文学博士 元良勇次郎
修養を論ず……………文学士 深作安文
重て遠藤隆吉君の高評に答ふ……………文学博士 高瀬武次郎
神のペルソナ(レオンバレー)……………姉崎正治

泰西思潮

ヘルマン氏の信仰批判(寒泉生)/独逸に於ける親子の争(バウルゼン)

雑録

本会記事/宗教界小言(曙夢生)/市民訓練の一新法

第六拾(1907年9月10日)

講演

現代社会の理想……………浮田和民
教育も亦廉価に買はざるべからず……………文学博士/法学博士 加藤弘之
不用意の言行……………増野悦興
二程語録を読む……………小柳司気太
ソクラチーズ詳伝

泰西思潮

死刑制限論(ヒース)

雑録

刺客の追賞(捕風生)/露探殺/文部省修身倫理科試験発問につき当局者に請ふ(中島生)/そぞろ言(其六)(寒泉生)

第六拾壹（1907年10月10日）

講演

人格修養……………文学博士/法学博士 加藤弘之
欧羅巴に於ける倫理研究の概況……………文学士 吉田熊次
東洋哲学の三大特色……………文学士 遠藤隆吉
ソクラテーズ詳伝（承前）

泰西思潮

マーデン氏「精神的休暇」/エーヴェブリー男の「軍神の崇拜」/二大学教授の「死
後余は如何にして生存するか」/ハリソン氏の「仏蘭西人の墮落」

雑録

本会記事/地方の会員某君に与ふ（一会員）/博多丸より（空寛子）/セシル・ロ
ーズの給費生に就ての理想（捕風生）/『吾国体と基督教』に就て（中島生）/そ
ぞろ言（其七）（寒泉生）

第六拾貳（1907年11月10日）

講演

知識の三方面……………文学博士 中島力造
人格修養論（続き）……………文学博士/法学博士 男爵加藤弘之
個人思想論……………文学士 藤井健治郎
欧羅巴人の長所……………文学士 吉田熊次

泰西思潮

ジエームズ・ブライス氏の「吾人々類は果して進歩しつつありや」/シユルマン
教授の「新聞知識」/オー・エフ・クツク氏の「田園は真の学校なり」/ハツチン
ソン氏の「睡眠に関する諸事」

雑録

本会記事/長所と短所（雷軒生）/倫理学と刑法（SK生）

第六拾参 (1907年12月10日)

講演

- 心理学より見たる禅の修養…………… 高島平三郎
節制を欠ける社会…………… 文学士 小林一郎
本務の本性に就て…………… 文学士 紀平正美

泰西思潮

伊太利に於ける科学的降神術の発達/バーネツト師の『人は皆宗教心を有するか』
/メチニコツフ教授の「長き寿と安き死」/アンナ・エー・ロージャース氏の『何
故に米国には離婚多きや』

雑録

本会記事/第六回家族会記事/道德山哲学寺の建設/地方の会員某君に与ふ(一
会員)/現代の個人主義(SK生)/婦人の自重(雷軒生)

第六拾四 (1908年1月10日)

講演

- 自然主義の傾向と道德…………… 文学士 塚原政次
境遇と道德…………… 文学士 吉田静致
宗教以上の道德…………… 文学博士 井上哲次郎
信仰問題…………… 高島平三郎
注意すべき文芸思潮の一傾向…………… 宮田脩
儒教哲学漫言…………… 小柳司気太
倫理研究者に対する希望…………… 増野悦興
無用なる学問の効用に就て…………… 文学博士 元良勇次郎
外遊の二新年…………… 文学士 藤井健治郎
作品と作家…………… 文学士 深作安文
過去の要素と現在の要素…………… 文学士 紀平正美
知の上の処世観…………… 文学士 大島正徳
ルーテルの教訓…………… 文学士 小林一郎
偶感…………… 文学士 野田義夫

倫理学者の態度を難ず（病床漫録の一節）	文学士	北沢定吉
伝道に関する徳義を論ず	文学士	吉田熊次
教育に就ての一言	文学士	吉田賢龍
社会の調和と教育		溝淵進馬

泰西思潮

フリーマン教授の「賭博の罪惡たる所以」/ハミルトン氏の「群衆の精神」/フアイト氏の「文化の共和主義」/肉欲派の小説/ヘーア氏の「成功の秘訣」
--

雑録

本会記事

第六拾五（1908年2月10日）

講演

無用なる学問の効用	文学博士	元良勇次郎
社会生活の内容と形式	文学士	藤井健治郎
主知的の日本人	文学士	朝永三十郎
道德の具体的標準としての国家	文学士	紀平正美

泰西思潮

紀元後二千年に於ける国際的議会（ジェボンス）/ジェームス教授の「人の荒廃せる勢力」/ベンソン氏の「専門家の跋扈」/幽霊は如何に重複するか
--

雑録

本会記事/心の飢渴（雷軒生）/再論儒教哲学（小柳司氣太）/文士の放言（捕風生）

第六拾六（1908年3月10日）

講演

独逸の学生生活に就て	文学士	溝淵進馬
新キニック哲学思潮		宮田脩
善と美	文学士	深作安文

「倫理学要領」を読む……………文学士 三島復
社会生活の中の内容と形式（承前）……………文学士 藤井健治郎

泰西思潮

スクリプチュア教授の「降神術と学者」/オーウェンウィスター氏の「学殖に於ける亜米利加の劣等」/ミュンステルベルヒ教授の「催眠術と犯罪」/キップリング氏の学生訓/賭博と盗賊との比較

雑録

本会記事/霊的施与（雷軒生）/天籟地響 何故にクリスチアンたらざるべからざるか（中山忠義）/余が宗教観（野哲）/そぞろ言（寒泉生）/警視庁と醜文学（捕風生）

第六拾七（1908年4月10日）

講演

伯林の半年（便宜主義、自然主義、教権主義対プラグマティズム）
……………文学博士 桑木敏翼
国家と宗教……………法学博士 浮田和民
伝道の徳義に関して「新人」記者に答ふ……………文学士 吉田熊次
日本魂の要素……………増野悦興

泰西思潮

意志力と物質力との関係/ミソマニヤックス——慢性的虚言者/ドクトル・ワレース氏の「如何にして人間種族を改善すべきか」/エリス氏の「欧羅巴の老衰」/ドクトル・クローヂア氏の「社会主義への挑戦」/「美と醜」

雑録

本会記事/聖人の悟得と吾人の悟得（雷軒生）/フェブネルの美しき倫理説（北沢定吉）/「美人」薄命（中島生）

第六拾八（1908年5月10日）

講演

- 求めたり、されど、与へられず…………… 文学士 木山熊次郎
倫理上第一の格言…………… 文学博士 三宅雄二郎
個性主義に就て…………… 文学士 朝永三十郎
ロイス・キブソン氏の「倫理学の哲学的序論」と吉田静致氏の「倫理学基礎概念
講話」…………… 文学士 北沢定吉

泰西思潮

女らしき女王（ノース）/フィノー氏の「幸福論」/死の歓喜（ベルント）

雑録

本会記事/自然主義とプラグマティズム（寒泉生）/玉となるの素地（雷軒生）/
ハイカラ式情死未遂（捕風生）

第六拾九（1908年6月10日）

講演

- ソークラテースの使命…………… 文学士 藤井健治郎
ロイス・キブソン氏の「倫理学の哲学的序論」と吉田静致氏の「倫理学基礎概念
講話」（承前号）…………… 文学士 北沢定吉
ファイト氏の倫理学原論解説…………… 中島徳蔵

泰西思潮

教会と健康（カボット）/子供たること

雑録

本会記事/第七回家族会記事/そぞろ言（無名氏）/叩頭と土風（雷軒生）

第七拾（1908年7月10日）

講演

- 品性陶冶は可能なるや否や（北沢学士への答弁を添ふ）………… 文学士 吉田静致
東洋倫理学建設の必要…………… 文学博士 遠藤隆吉

個性主義に就て (承前) 文学士 朝永三十郎
カーネギー氏のロー氏評伝

泰西思潮

無益な読物の有益/ドクトル・グリッス氏の『日本人はアリアン人種なり』

雑録

本会記事/主義者及び主義病者 (雷軒生) /三宅博士の「倫理上第一の格言」を読む (内田正) /天籟地響 宗教的伝道と法律 (大島順三郎)

第七拾一 (1908年8月10日)

講演

何ぞ進みて自ら取らざる..... 高島平三郎
自然と道德 文学博士 井上哲次郎
人格的唯心論とは何ぞや..... 文学士 北沢定吉

泰西思潮

ルーズヴェルトの偉大なる点/青年の勝利/老年の勝利/肥満の天才/グラッドストーンの牛津再訪

雑録

男女間に於ける罪惡の平均 (雷軒生) /天籟地響 自殺は非なるか (中山忠義) /明治修養会/そぞろ言 (寒泉生) /何を食ひ飲み而して避くべきか 英国現在諸大家の実験

第七拾二 (1908年9月10日)

講演

我国徳育の前途 横井時雄
右に対する意見 (井上哲次郎・吉田賢龍・三宅雄二郎・小柳司気太・深作安文・大島正徳)

加藤博士の利己説を駁す..... 農学博士 玉利喜造

泰西思潮

日本の実業道德/新聞紙と時間の浪費/仏国の思想界に及ぼせる英国の感化/最も幸福なる少年/女子と反抗

雑録

本会記事/官立音楽学校の使命（雷軒生）/そぞろ言（寒泉生）

第七拾三（1908年10月10日）

講演

崇拜と鑑賞……………文学士 吉田静致
加藤博士の利己説を駁す（完）……………農学博士 玉利喜造
東洋倫理学上の疑問一則……………文学博士 高瀬武次郎
二人生觀の競争……………中島徳蔵

泰西思潮

二重の勝利/ラスキンの新研究/進化に於ける肉体的、知識的、道德的時期/決闘の撲滅/単性生殖/死か不朽か

雑録

本会記事/女優学校と芸妓の後身（雷軒生）/キブソン対吉田学士論補遺（北沢定吉）

第七拾四（1908年11月10日）

講演

老人訓……………佐治実然
我邦に於ける婦人の責任……………隈本有尚
自然と道德（第七十一号に接す）……………文学博士 井上哲次郎

泰西思潮

社会主義/禁酒の世界的波及/非禁酒論/英国民は剛健の氣象を失ひつつあるか/サージェント氏成功伝/ボストン市の職業局/女子の健全/英国労働者の修養

雑録

本会記事/ハイデルベルヒの哲学会（桑木厳翼）/開国進取の要件（雷軒生）/大詔大意/哲学会公開講演

第七拾五（1908年12月10日）

講演

時代思想の推移…………… 得能文
 僧院と僧院生活…………… 文学博士 姉崎正治
 教育社会側面観…………… 文学士 木山熊次郎
 人格的唯心論に就て…………… 文学士 朝永三十郎

泰西思潮

酒精中毒は禁酒の手段（リード）/自然美の保存

雑録

本会記事/バルカン半島の話（千葉敏蔵）/儒教復活に就て（元良勇次郎）/偶感（斗武子）/攘夷実行の難易（雷軒生）

第七拾六（1909年1月10日）

講演

戊申詔書と倫理教育…………… 法学博士 有賀長雄
 戊申詔書に就て…………… 文学博士 井上哲次郎
 人格的唯心論に就て…………… 文学士 朝永三十郎
 『新倫理学』に就て…………… 文学士 藤井健治郎
 基督教徒は何故に前には脱兎の如くして後には処女の如くなる乎
 ……………… 文学博士/法学博士 加藤弘之
 国家と世界との関係を論じて戊申詔書に及ぶ…………… 文学士 深作安文

泰西思潮

近世的女性/平和の義士（ミード）

雑録

毒鼓（蜻蛉子）/何が目出度いか（雷軒生）/外形と精神（虎山生）/そぞろ言（寒泉生）/バルカン半島の話（千葉鉦蔵）

第七拾七（1909年2月10日）

講演

勇猛精進……………文学士 常盤大定
現在主義……………宮田脩
儒教の復活……………小柳司気太
明治四十一年の回想……………文学士 北沢定吉
沢柳文学士の「学修法」を読む……………中島徳蔵

泰西思潮

プラグマチズム十三義/黄金対朋友/男女と脳髓/必須の睡眠時計/労働者の精神的静養所/第六感覚/婦人の妙齡崇拜/希臘文明の淵源/善良なる母の必要

雑録

本会記事/田中宮相事件を機として所謂元勳諸氏の自重を促す（宮田脩）/田中宮相は果して自然主義者なるか（雷軒生）/敢て問ふ（千朵花屋主人）/結婚問題と道徳的判断（吉田熊次）/毒鼓（二）（蜻蛉子）/加藤博士の論文に就いて（シドニー・ギユリック）

第七拾八（1909年3月10日）

講演

儒教一貫の義とは何ぞや……………文学博士 遠藤隆吉
人格的評価を論ず……………文学士 吉田熊次
中島氏の拙著「学修法」の批評を読む……………文学士 沢柳政太郎
加藤弘之博士の問題に答へて更らに博士に問ふ
……………マスター・ラブ・アーツ 蘆田慶治

泰西思潮

国民性及び経世家の品性（ルーズヴェルト）

雑録

本会記事/人身の自由と司法警察（横田秀雄）/烈女伝（千朵花）/広義の「自然主義」外二則（耳袋生）

第七拾九（1909年4月10日）

講演

西洋に於ける没我思想と主我思想との消長と民族的分布とを述べて我邦の思想に及ぶ……………文学士 朝永三十郎
実在の信仰に対する心理的見解……………文学博士 松本亦太郎
俟素の標準と家計統計……………隈本有尚

泰西思潮

日々の愛国心（バーンハム）

雑録

本会記事/親の不幸と娘の醜業（捕風生）/忌まはしき離婚沙汰（道学先生）/学校生徒ストライキ（慨世迂人）/自殺の仕方と善美の観念（城北閑人）/高等なる学校の科目としての倫理（螺雲道人）

第八拾（1909年5月10日）

講演

新らしき信仰と心理的治療法……………マスタア・ヲブ・アアツ 千葉鉦蔵
性格評価と行為評価……………文学士 北沢定吉
宗教に就て……………西田幾多郎
精神の伝達と感化の心理……………文学士 野上俊夫

泰西思潮

万国倫理教授研究会名誉幹事サツドラ一氏の報告

雑録

第八回家族会記事/本会記事/丁酉倫理会酉歳記念地方巡回講演記事（藤井健治郎）

第八拾壹（1909年6月10日）

講演

支那哲学者の自然に関する見解…………… 小柳司気太
西洋に於ける没我思想と主我思想との消長と民族的分布とを述べて吾邦の思想に及ぶ（前々号の続き）…………… 文学士 朝永三十郎
東西文明融合の意義及び経過を論ず…………… バチエラー・ラブ・アアツ 田中喜一

泰西思潮

消費の道徳（サルモン）/欧羅巴連邦の建設/精神感応と思想伝達/発明家としての労働者

雑録

本会記事/一希望（千朵花）/高商問題の解決法（捕風生）/西航余談（我羊生）

第八拾貳（1909年7月10日）

講演

「人格的評価」に関して北沢君に答ふ…………… 文学士 吉田熊次
西洋に於ける没我思想と主我思想との消長と民族的分布とを述べて吾邦の思想に及ぶ（完結）…………… 文学士 朝永三十郎
責め得る者ありや…………… 文学士 木山熊次郎
神と世界…………… 西田幾多郎

泰西思潮

死人の再来（ステット）/学者の盲目/幽明両界の通信局/英独国勢比較/近世外科手術の進歩

雑録

本会記事/寛容の精神（二人行者）/日糖事件の最終責任者（捕風生）/誘惑（無名氏）/現社会に推薦すべき信念（雷軒生）/西航余談（続）（我羊生）/夏期講習会一覧

第八拾三（臨時増刊）（1909年7月15日）

小序

講演

主観主義客観主義及絶対主義	紀平正美
誤れる常識主義を排す	田中喜一
形式的平民主義と実質的平民主義	吉田静致
基督教に関する二大問題に就て	加藤弘之
変化と進化	中島力造
伝道と教育及政治	増野悦興
人格の真価	大島正徳
忠孝の哲学的基礎	吉田熊次
孝道観念の変遷に就て	井上哲次郎
時弊数則	深作安文
大学を読む	小柳司気太
現今の社会問題と倫理運動	友枝高彦
婦人問題	下田次郎
教育問題	吉田賢龍
逆境の恩寵	常盤大定
金権時代の消長	藤井健治郎
進み取る道如何	木山熊次郎
実業の動機	中島徳蔵
教育界現時の急務	高島平三郎
意識一元論と人格的唯心論とに就いて	北沢定吉
イブセンの脚本『建築師』に就ての管見	千葉鉦蔵

文芸に就て	三宅雄二郎
自然と自由	得能文
吾人は後世に何を残すべき乎	元良勇次郎
平凡の教訓	姉崎正治
美術と信仰	姉崎正治
犠牲の精神	吉田静致
悟の話	高島平三郎
根本悪に就て	藤井健治郎

雑録

本会記事/又/丁酉倫理会酉歳記念地方巡回講演記事（藤井健治郎）

第八拾四（1909年8月10日）

講演

人格的唯心論、自然主義、品性行為関係論に就て諸君子に答ふ	文学士 吉田静致
予が回心の顛末	増野悦興
德育論	中島徳蔵
トオマス・ヒル・グリーン、ヘンリー・シヂキイクニ先生遺事	マスタア・オブ・アアツ 千葉鉦蔵

泰西思潮

カーライルの艶書（アボット）/少年の保護/ワード女史の亜米利加小説/気分の奴隸

雑録

故日糖社長の自殺（捕風生）/学校騒動に就て（篁隅生）/偶感三則（耳袋生）/真の慰藉（雷軒生）

第八拾五 (1909年9月10日)

講演

靈魂滅否論と道德……………文学博士 高瀬武次郎
トオマス・ヒル・グリーン、ヘンリイ・シヂキイクニ先生遺事
……………マスタア・オブ・アアツ 千葉鉦蔵
地理と道德……………文学士 深作安文

泰西思潮

ワイズマン教授のダーウキン論/本能か模倣か/現代の仏蘭西文学/国際的労働
協会/一般公衆と新教化/理想的酒楼/不死の願望/トルストイの最後の辞/お伽
噺の効果/現代教育組織の欠陥

雑録

茶の煙(斗武子)/宗教論三則(耳袋生)/読西雑誌(多田雄)/女子教育に伴ふ
疑問(雷軒生)/掬香氏訳のイプセン劇(赤城山人)/西航余禄(我羊生)

第八拾六 (1909年10月10日)

講演

文明と人格……………文学士 下田次郎
美的形式の制限……………文学士 小林一郎
ハドレー総長の『公德の標準』を読む……………中島徳蔵

泰西思潮

紐育市長市政紊乱の一例/学校の利用

雑録

本会記事/野に遺賢多し(中島生)/加藤博士に進言す(玉利喜造)/家庭主義(耳
袋生)/『新女学生訓』に就て(二人行者)

第八拾七（1909年11月10日）

講演

- 意識と人格……………文学士 大島正徳
人格的唯心論、自然主義、品性、行為関係論に就て諸君子に答ふ（其二）
……………文学士 吉田静致
ハドレー総長の『公德の標準』を読む（前号の続き）……………中島徳蔵
精神療法の歴史と現状……………アッディントン・ブルース

泰西思潮

進化論と社会政策/文学者と妻/チレル父老の神秘主義/神秘家と神秘主義

雑録

本会記事/無形の公德（吉田熊次）/諸主義と人性（耳袋生）/読西雑誌（多田雄）
/伊藤公を吊す（記者）

第八拾八（1909年12月10日）

講演

- 自由思想家の倫理観……………パチエラー・オブ・アーツ 田中喜一
地方人心開拓の急務……………文学士 北沢定吉
伊藤公爵の国葬と講堂訓話……………文学士 吉田熊次

泰西思潮

エドワード・ハリマン/キツプリングの欠点/注意すべき新哲学者/セシル、ロー
ズの給費生に就て/米国の最大有力者

雑録

本会記事/第九回家族会記事/我邦道德思想の最大欠陥（耳袋生）

第八拾九（1910年1月10日）

講演

- 現代の価値……………文学博士 桑木厳翼
道德と経済との関係……………法学博士 桑田熊蔵

青年の心理を論じて其心理に及ぶ…………… 文学士 塚原政次
盲人預言者…………… 文学博士 姉崎嘲風
国民道徳と倫理学説…………… 文学博士 井上哲次郎

泰西思潮

仏蘭西の道徳問題/イプセンのノートブック(男性私見)/社会学の実験的研究法
/富豪の模範たるケンネディー氏/新慈善法(ラッティモア)/近世的論説を
書くに就ての秘訣(マクドナフ)

雑録

本会記事/倫理上実際の三問題(加藤弘之)/思想界の調子を高める一策(木山熊
次郎)/応用倫理学研究の必要(吉田熊次)/道徳と新刑法(三輪田元道)/職業
と其報酬(岸本能武太)/不平と社会の存立(深作安文)/偉人(紀平正美)/神
經過敏の弊(北沢定吉)

第九拾(1910年2月10日)

講演

国民道徳と倫理学説(前号の続)…………… 文学博士 井上哲次郎
社会の習慣と個人の良心…………… 文学士 藤井健治郎
女子教育雑感…………… パチエラー・ヲブ・アーツ 田中喜一

泰西思潮

ロッジ氏の『死後の存在』を読む/ダーウィンの面影/人の三体

雑録

本会記事/生きてる読書子乏し(木山生)/学問の価値を過信する弊(く、き生)
/羅馬の諺(さ、き、生)/活動写真(小林一郎)/自殺論(三輪田元道)

第九拾壹(1910年3月10日)

講演

聖母垂迹のルールド…………… 文学博士 姉崎正治
青年と教育の職業…………… 文学士 木山熊次郎

道徳的修養の実行を促して修養機関の事に及ぶ…………… 文学士 松山直蔵
東西文明の融合…………… 法学博士 浮田和民

泰西思潮

学生時代のエマーソン/独逸国民/読書の秘訣/ジェントルマン (Gentleman 紳士)
の歴史的意義

雑録

本会記事/自然主義の類勢（静斎閑人）/教界漫言（千朵花）/シンツの『道徳対
文芸』を読む（多田雄）/読者聴講者の声

第九拾貳（1910年4月10日）

故文学士北沢定吉君肖像

講演

北沢君を想ふ…………… 文学博士 桑木巖翼
吉田学士の『類推的直観』及び『習慣』の説を評す…………… 文学士 北沢定吉
進化論者の一空想…………… 中島徳蔵

泰西思潮

諸名家の紳士の解釈/罪人の友/人の最大目的

雑録

本会記事/『渦巻』を読みながら（空寛）/以太利のニイチエ（人生の径路・道徳
の不道徳）（多田雄）/沐浴と道徳（水木子）/故北沢君の霊を吊す/北沢定吉君を
憶ふ（紀平正美）

第九拾参（1910年5月10日）

講演

道徳経験に於ける情的評価の作用及び制限
…………… パチエラー・ヲブ・アアツ 田中喜一
道徳と政治との関係…………… 法貴慶次郎
エロストラートス（人格の不滅に就て）…………… 文学士 紀平正美

『青年と教育の職業』に就ての卑見…………… 文学士 吉田熊次

泰西思潮

世界的慈善家ルイス・クロップシュ/教授の交換/諸大学の協力/職業療法

雑録

読西雑誌(多田雄)/雑誌と広告/京都大学の学風?(捕風生)/行く先と行く道

(耳袋生)/亡友北沢君の生涯より学ぶ教訓(雷軒生)

第九拾四(1910年6月10日)

雑誌

道德の発展と社会設備…………… 文学士 吉田賢龍

実行原理としての信念…………… 文学士 深作安文

人生の運命は如何に解決すべき乎…………… 文学博士 村上專精

泰西思潮

ファ・ドフライン教授の『吾人及び日本人』/断食は最良の健康恢復法/諸名家の

『紳士』の解釈

雑録

本会記事/アメリカニズム(吉田熊次)/図書の検閲に就て(叢書迂人)/諸氏の

高教に答ふ(木山熊次郎)

第九拾五(1910年7月10日)

講演

奇人論…………… 文学士 三輪田元道

国民道德の倫理学的基礎…………… 文学士 吉田静致

仏蘭西哲学の現況…………… 文学博士 桑木敞翼

ゼイムス、タフツ氏の現今倫理学説の任務…………… 記者記

泰西思潮

アッディングトン・ブルース（Addington Bruce）氏の『欧米に於ける心象研究の状況』（一）/ルーズヴェルトと世評/新メディアムの発見/ルーズヴェルトの『世界の犬勢』/英国の少年斥候

雑録

本会記事/第十回家族会/根拠なき己惚（愚仏庵主人）/時事二則（耳袋生）/講習会一束/科学と信仰との衝突を描きし小説（多田雄）

第九拾六（1910年8月10日）

講演

人道と国民道徳との関係…………… 文学士 吉田熊次
国民道徳の倫理的基礎（承前）…………… 文学士 吉田静致
欧米教育界と徳育問題…………… 文学士 川島金五郎

泰西思潮

ハアヴァド大学に於ける一大仏蘭西哲学者（キリアム・ヂエムス）/英人果して衰微せしや/露西亜哲学

雑録

伯林通信（朝永三十郎）/流行カルネッサンスか（千朶生）/政事家と道学先生（耳袋生）

第九拾七（1910年9月10日）

講演

私有財産制度と道徳…………… 文学士 藤井健治郎
女子高等教育に関し欧米に存する諸種の意見…………… 文学博士 中島力造
活動と静坐…………… 宮田脩

泰西思潮

アツヂントン・ブルース氏の『欧米に於ける心象研究の詳況』（二）

雑録

伯林通信（朝永三十郎）/賭博と芸術（空霓）/読者の声 両吉田氏の人道と国民
道徳との関係を読み（隠几生）

第九拾八（1910年10月10日）

講演

倫理学説と実験倫理学……………文学博士 桑木徹翼
ノルマン、ワイルド教授の「宗教は奢侈品か義務か」
現代の傾向を評す……………高島平三郎

泰西思潮

独仏英米に於ける『倫理学最近の傾向』/伊太利人の日本教育観/児童省の新設案
/ルーズヴェルトの『田舎生活』の一節

雑録

本会記事/韓国の併合に就いて（耳袋生）/同口異音（秋風子）/病床回顧（雷軒
生）/故キリアム・ジエムス先生を悼む（其の一）（多田雄）

第九拾九（1910年11月10日）

講演

シヨペンハウエル入滅の五十年目……………文学博士 姉崎正治
女子教育の意義に就きて……………増野悦興
倫理思潮管見……………文学士 八田三喜

泰西思潮

古代の羅馬と近世の亜米利加/亜米利加家庭の墮落/ベルグソンの『創造的進化』

雑録

本会記事/活ける道徳（千朶生）/韓国併合は吾人に何を教ゆるか（吉田熊次）/
三種の家庭（耳袋生）/聞き苦しき話（雷軒生）

第百（1910年12月10日）

講演

儒教の政治論	小柳司気太
漢学の新活路に関する私見	文学博士 遠藤隆吉
女子の常快活	中島徳蔵

泰西思潮

新聞雑誌業と道德（ノルマン・ハプグット）/諸人種の世界的会議

雑録

丁酉倫理会第百号記念大講演会/第十回家族会記事/ショペンハウエルの譬喩
二三（姉崎正治訳）/国変予想（螺雲道人）/南極探検隊出発（雷軒生）

第百壹（丁酉会倫理講演集第百一号記念号）（1911年1月1日）

講演

第百壹号記念大講演会開会の辞	中島徳蔵
道德上より観たる欧米諸国人の長所	文学博士 中島力造
倫理上の二三の問題	文学士 吉田熊次
人道主義の真義	文学士 吉田静致
二三の青年論	文学士 木山熊次郎
過去七十年の追懐	法学博士/文学博士 男爵加藤弘之
孔子に対する社会的信仰の矛盾	文学博士 村上專精
德育管見	文学士 溝淵進馬
学者と實際	小柳司気太
一転語	文学士 紀平正美
習慣は如何なる意味に於て道德なるか	農学士 矢島錦蔵
女子に対する倫理的要求	宮田脩
レキ ^レ ー＝ブルールの非規範学的倫理学	文学博士 桑木巖翼
趣味的修養	文学士 常盤大定
個人主義と家族主義	塚原政次
西洋道德の觀察	文学博士 姉崎正治

ソクラテス時代と日本の現代との比較…………… 法学博士 浮田和民
進歩と回顧…………… 文学士 深作安文
修身といふ語…………… 文学博士 三宅雄二郎
忠孝と人道…………… 文学博士 元良勇次郎
古風の宗教と現代の道德…………… 文学博士 井上哲次郎
キリアム・ヂェムスが最後に出だしし論文『戦争の道德的代用物』を読む
…………… マスタア・ラブ・アアツ 千葉敏蔵
孝道に就て…………… 文学士 沢柳政太郎
思索の倫理…………… 文学士 大島正徳
罪の観念…………… 高島平三郎

泰西思潮

女子教育上の注意/結婚率の減少/昆虫の結婚/精神感応は心象的事实を総て解
釈し能ふか

雑録

本会記事/独語録(有無子)/三種の父(耳袋生)/ジェームス記念会

第百二(1911年2月10日)

講演

ショーペンハウエルの哲学…………… 文学士 朝永三十郎
自殺の地方的分布…………… 文学士 岡野義三郎
理想的家庭…………… マスター・ラブ・アーツ 岸本能武太

泰西思潮

科学的経営/市政改良につき米人の発憤/断食に就いて/富豪の怠慢/セシル・ロ
ーズの立志/名画一時四方の価格

雑録

本会記事/家を尊ぶ精神の涵養(雷軒生)/天籟地響 沢柳氏の『孝道に就て』を
読みて疑を質す(三遊生)

第百参（1911年3月10日）

講演

道徳的因果律……………文学士 大島正徳
天文心理に就て……………隈本有尚
ページ氏の『成立中の商業道徳論』を読む……………記者

泰西思潮

潜在意識と神学（シー・エフ・ダーシー）

雑録

本会記事/危険思想の撲滅策すべし（捕風生）/天文心理占解答（螺雲道人）/相
対的の道徳と絶対的の道徳（耳袋生）/教祖無くとも宗教は存し得るや（雷軒生）/上
下貴賤の序、岸本氏の理想的家庭論（西普一郎）

第百四（1911年4月10日）

講演

新制第三学年用高等小学修身書の批評……………文学士 藤井健治郎
『高等小学修身書新制第三学年用』を読む……………得能文

知識と人生……………文学博士 桑木敞翼

道徳的因果律……………文学士 大島正徳

泰西思潮

『島人』の愛国箇条/市長ストロングの教訓/犯罪の増加と印刷物/図書館の平民
主義化

雑録

本会記事/劇界革新の運動/春季に於ける国事予想（螺雲道人）/天文に依る心理
の研究（螺雲道人解答）/同尊か秩序か（出娑婆生）

第百五 (1911年5月10日)

講演

新制第三学年用高等小学用修身書に対する藤井君の批評の批評

…………… 文学士 吉田熊次

実業家の任務…………… 文学士 深作安文

エヴェリン・アダム女史の日本人評『障子の裡』…………… 中島徳蔵

泰西思潮

ジェーン・アダムス女史/病気は興国の基礎/マホメットの教/賄賂禁止会/ワ
レースの新著『生物界』

雑録

本会記事/博士号辞すべきか(城北隠士)/家門の誉(捕風生)/天籟地響 地方
の実情を顧みよ(チー・エム生)

第百六 (1911年6月10日)

講演

トルストイの絶対主義を論ず…………… パチエラー・オブ・アーツ 田中喜一

偉人日蓮…………… 高島平三郎

忠義と正義…………… マスター・オブ・アーツ 岸本能武太

泰西思潮

ブランダー・マシュース氏の模倣の義務/フイツシャー老教授の女子訓/戦争と
経済/労働者の負傷と傭主の賠償/精神病研究の展覧会

雑録

本会記事/雑誌経営上の徳義(無名氏)/公設通俗教育事業(捕風生)/天文に依
る心理の研究(螺雲道人)/文化史上及び社会問題の一として観たる吉原(多田
雄)

第一百七（1911年7月10日）

講演

南北朝問題と教育…………… 法学博士 浮田和民
商業道德の攻究…………… 鈴木券太郎

泰西思潮

性の問題/一新教授法/戦争謳歌論/心象研究家フレデリック・マイヤース氏/人種に関する迷信

雑録

第十二回家族会/本会記事/家庭の娯楽（多田雄）/修養道歌（道德主義の部）/天文に依る心理の研究（螺雲道人）/夏期講習会彙報

第一百八（1911年8月10日）

講演

生存競争と道德…………… 文学士 藤井健治郎
個人主義か家族主義か…………… 中島徳蔵

泰西思潮

少年共和国（カザリン・エフ・エリス）/夢の一新解釈/実証論と一元論/慈善会の総会/亜米利加哲学会の講演

雑録

夏日放言（白面子）/新自然主義（耳袋生）/天才の教育——個性の叫び（龍川生）/天文に依る心理の研究（螺雲道人）

第一百九（1911年9月10日）

講演

わが修養論…………… パチエラー・オブ・アーツ 田中喜一
商業道德の根本思索…………… 鈴木券太郎

泰西思潮

ベルグソン論評/社会的罪惡に就て/成功と僥倖

雑録

筆のしづく（飛魚生）/時事問題二則（多田雄）/高等遊民論に就いての偶感（一高等遊民）/天文に依る心理の研究（螺雲道人）/愚仏庵日記抄（庵主人）

第百拾（1911年10月10日）

故木山文学士肖像

講演

木山熊次郎君を悼む……………文学士 大島正徳
科学と道徳……………文学博士 元良勇次郎
万国人種会議……………文学士 友枝高彦
新聞紙に現はれる国民の神経衰弱……………内堀維文

泰西思潮

芸術の営利主義/海外に於ける英国の投資額/東洋事情より得らるる教訓/内気の価値

雑録

本会記事/木山文学士を弔す（紀平正美）/動物虐待（耳袋生）/市民的義務研究すべし（捕風生）/天文心理研究（螺雲道人）

第百拾壹（1911年11月10日）

故増野悦興君肖像

雷軒増野悦興君小伝

講演

家族主義と個人主義……………文学博士 井上哲次郎
ヘーゲルの国家論……………文学士 紀平正美
増野悦興君を弔す……………マスター・ラブ・アーツ 岸本能武太

泰西思潮

正義の平和（ルーズヴェルト）/学生の政治運動/新らしき精神療法/カーネギー国際平和運動寄付金商議

雑録

本会記事/法律に対する尊敬（鈴木生）/天籟地響 青年士女の互に相知るの道を
開くの要るを論じて先覚者に訴ふるの書（青山惇揚）/井上文学博士に問ふ（田
島治三郎）/天文心理研究（螺雲道人）

第百拾貳（1911年12月10日）

講演

如何にせば国民の道徳を振起し得べきか…………… 文学士 吉田熊次
家族主義と個人主義（続）…………… 文学博士 井上哲次郎
チリー教授の『現代の特質』…………… 丁酉記者

泰西思潮

社会的奉公/亜米利加の少年義勇団/音楽的調剤

雑録

第十三回家族会記事/本会記事/田中王堂氏の『書齋より街頭に』に就て（野崎広
義）/真理と教育（千朵花）/知行合一と意志（西普一郎）/天文心理研究（螺雲
道人）

第百拾参（1912年1月10日）

講演

日本固有の道徳に就て…………… 法学博士/文学博士 加藤弘之
態度論…………… 文学士 大島正徳
ロダンとベルグソン…………… 高島平三郎
人生の経緯…………… 文学博士 姉崎正治
臥龍松…………… 文学博士 桑木敏翼
新境遇に対する道徳的要求…………… 文学博士 井上哲次郎

泰西思潮

親の年齢と子供の体格/偉人と其の妻の選択法/フアイト教授の『個人主義』

雑録

世界の平和と競争（三輪田元道）/西洋の東洋思想（小柳司気太）/日本国民の一
特長（紀平正美）/犠牲的精神の涵養（深作安文）/公心と私心（吉田熊次）/中
華的思想（鈴木券太郎）/我国師範学校の一面観（法貴慶次郎）/離婚問題の一研
究（宮田脩）/子供と財産（岸本能武太）/『ノラ』劇を見て（得能文）/修身科
受験準備に就ての注意（中島力造）

第百拾四（1912年2月10日）

講演

倫理学上の自然主義……………文学士 吉田静致
教育者の面目（故木山学士を憶ふ）……………文学士 大島正徳
ロダンとベルグソン（完）……………高島平三郎

泰西思潮

不思議な夢の研究/仁政却つて国を滅ぼす/教授法の刷新を施せ

雑録

本会記事/我国民道徳と人道的道徳（西普一郎）/井上円了博士の南米コムト教会
の報告/身心の調和（耳袋生）/天籟地響 殺人は絶対悪に非るか（田島治三郎）
/吉田熊次氏の国民道徳の振起策を読みて（小野村林蔵）

第百拾五（1912年3月10日）

講演

社会の統制力……………文学士 三輪田元道
平和乎戦闘乎……………法貴慶次郎

泰西思潮

ボールドキンの『個人と社会』の一短評/巨額なる米国の寄付金/南倫敦の一社会
的事業/米国の農業教育

雑録

宗教家会同に就いて（元良勇次郎）/床次氏の「三教者会同に関する私見」を読む（吉田熊次）/内務省宗教家会同に就きて（小柳司気太）/三教者会同に就て（紀平正美）/三教会同に関する卑見（瀧村斐男）/三教会合政策に就きての管見（法貴慶次郎）/三教者会同に就いて（高島平三郎）/三教会同問題（常盤大定）/予の根本の疑問（三教者会同に就て）（大島正徳）/宗教家会同に就いて（加藤弘之）/三教者会同に就て（中島徳蔵）/宗教家会同に就て（深作安文）/宗教の権威（岸本能武太）/宗教家会同の精神並に事業を継続し発展するに就いての私案（姉崎正治）/至誠の精神と道德生活（藤井健治郎）/宗教家会同問題に就て（千葉鋳蔵）/本会記事

第百拾六（1912年4月10日）

講演

自覚論…………… 中島徳蔵
富国策…………… 文学士 瀧村斐男
ギョーの道德無義務論…………… 文学士 錦田義富

泰西思潮

文明の危機/米国の宗教復興運動/発明と国富/偉人の言/武装的平和の入費/新歴史研究法/世界義勇団

雑録

本会記事/南半球社会道德の情態（井上円了）/歴史と国民的生活（千栄生）

第百拾七（1912年5月10日）

講演

教育者としての大原幽学…………… 文学士 吉田熊次
誠論…………… 得能文
ギョーの道德無義務論…………… 文学士 錦田義富

泰西思潮

汚穢の崇拜/来るべき学校教育/各国の料理法/滑稽とは何ぞや

雑録

本会記事/逍遙先生の『キング・リヤ』と王堂学人の『哲人主義』との紹介(掬香)/疑問と煩悶(耳袋生)

第百拾八(1912年6月10日)

講演

哲学と現代……………文学博士 桑木厳翼
ネオ・ヘレニズム……………米国哲学博士 鷲尾正五郎
新肉体観……………マスター・オブ・アーツ 岸本能武太

泰西思潮

同盟罷業の権利(ロバート・エー・ダッフ)/仏国の実験に基きたる有効なる徳育問題(ハロールド・ジョンソン)

雑録

第十六回家族会記事/本会記事/文芸協会公演の『故郷』劇に就いて(加藤弘之)/同(得能文)/『哲人主義』の紹介(掬香)/自覚の流行に就て年寄がたに一言(宮崎右夫)/哲学大辞書の完成

第百拾九(1912年7月10日)

講演

哲学と現代(前号続)……………文学博士 桑木厳翼
現代と将来……………文学士 下田次郎
興行物取締問題……………文学博士 吉田熊次

泰西思潮

フナナ魂(イー・エム・ホワイト)/少女義勇団/軍備制限の必要/戦争は利己の為めか

雑録

本会記事/『輓近倫理思潮の傾向』に就て（得能生）/総選挙と新市長候補者に就いて（千葉鈺蔵）/総選挙の成績（吉田熊次）

第百貳拾（1912年8月10日）

丁酉倫理会会員某某等 肅みて

講演

加藤博士著『自然と倫理』の批評……………文学士 藤井健治郎
慚愧……………文学士 常盤大定
国家の本性及び国民道徳……………文学博士/法学博士 加藤弘之

泰西思潮

道徳教育に関する誤解（ヘンレイ・ノイマン）/靈魂不滅論（キリアム・デイロン）

雑録

本会記事/『をんな魂』に就ての感想（鳩山春子）/体育に就て（耳袋生）

第百貳拾壹（1912年9月10日）

講演

倫理学と哲学との関係……………文学博士 中島力造
人道は妄想なりや……………文学士 深作安文
加藤博士著『自然と倫理』の批評（前号の続き）……………文学士 藤井健治郎

泰西思潮

社会上及び経済上の改革/浅薄なる文明危機論

雑録

明治天皇の御事（加藤弘之）/香煙一縷（飛魚生）/PHOENIX（王堂）

第百貳拾貳 (1912年10月10日)

講演

日本の問題と世界の問題…………… 文学博士 姉崎正治
芸術に就きて…………… 文学士 瀧村斐男
乃木学習院長の薨去につきて…………… 小柳司気太

泰西思潮

紳士富豪の子弟に告ぐ/『青年ニーチェ』

雑録

本会記事/乃木將軍の自殺に就いて(耳袋生)/乃木大将夫妻自殺の是非論(中島生)

第百貳拾參 (1912年11月10日)

講演

開会の辞…………… 文学博士 吉田熊次
合理的教化…………… 得能文
偉人と人間の進化…………… 文学士 吉田静致
哲学研究の新方針…………… 米国哲学博士 鷲尾正五郎
国民道德側面觀…………… 文学士 八田三喜

泰西思潮

人間の退化(マックス・ノルドオ)/死後の精神的進化/夫婦の同権

雑録

本会記事/エリオット博士の教育意見(捕風生)/淨汚觀念に就いて(耳袋生)/
質問の為し方に就て(根岸一郎)

第百貳拾四 (1912年12月10日)

講演

独逸の勃興と其根柢…………… 文学士 野田義夫
ファイト氏の『個人主義』…………… 文学士 小林良濟

宗教的、道徳的情操の教養上見神派の心理学の応用…………… 隈本有尚
オイケン氏の『変化と常恒』（時間と永遠）…………… 得能文

泰西思潮

偉大なる実業の発達/慈悲の二女子/露西亜の女子と其の自由/女子の数学/現代
教育の一弊

雑録

本会記事/女子の高等教育に就いて（耳袋生）/加藤玄智博士の『我建国思想の本
義』を読む（深作安文）

雑報

続大蔵経完成と真宗全書発行/天籟地響 「体育に就いて」の謬論（斎藤惟一）

第百貳拾五（1913年1月10日）

元良博士肖像及履歴

講演

丁西倫理会の会員に問ふ…………… 文学博士/法学博士 男爵加藤弘之
芸術上より観たる道徳…………… 文学博士 井上哲次郎
児童修身教授上利用すべき事項…………… 文学博士 中島力造
現実観と理想主義…………… 文学博士 姉崎正治
愛国心の要素…………… 文学士 藤井健治郎
元良先生を憶ふ…………… 文学博士 桑木徹翼

泰西思潮

教化の頽廃

雑録

本会記事/会員元良博士の訃/元良博士の印象（宮田脩）/復讐と武士道（紀平正
美）/帰朝所感（野田義夫）/修身科教授苦心談（栗原英之助）/虚偽と尚武心（内
堀維文）/江木博士の国家道徳論を読む（三輪田元道）/我國民道徳について（西
晋一郎）/人間と言語（吉田静致）/道徳思想の革進（吉田熊次）/去年の思想界
に就ての断感（南山生）

第百貳拾六（1913年2月10日）

講演

総合心理学の必要……………文学博士 遠藤隆吉
山鹿素行に就て……………文学士 深作安文
新实在論の人生觀に就て……………得能文

泰西思潮

現代の英雄觀に就て/広告の取締/英米両国民の実業觀/幼児の死/噫！アーサー・フングスト氏

雑録

本会記事/第三人称学より第一人称学へ（常盤大定）/修養に関する近時の傾向（吉田賢龍）/女子の高等教育（塚原政次）/元良先生を憶ふ（布川静淵）/第二回道德教育万国會議（友枝高彦）

第百貳拾七（1913年3月10日）

講演

新道德の基礎……………法学博士 浮田和民
大正の新学風……………小柳司気太
江木博士の国家道德論を読む……………文学博士 姉崎正治

泰西思潮

仏国民の減衰/資本と労働/生命の不思議/米人の独逸觀/脱我の状態

雑録

本会記事/盲者と聾者との道行き（愚仏庵主人）/実業道德の将来（塚原政次）/静座法に於いて『其一』（耳袋生）

第百貳拾八（1913年4月10日）

講演

教育の意義——有意的か無意的か……………文学士 大島正徳
噫スピノザ！……………ドクトル・オブ・フィロソフイ 鷲尾正五郎

児童生活に於ける道德意識の発達…………… 高島平三郎
泰西思潮

ベルグソンの哲学

雑録

本会記事/静坐法に就いて『其二』（耳袋生）/拙著「我建国思想の本義」に対する深作学士の批評を読む（加藤玄智）/偶感（愚仏庵主人）/桑木博士の新著『哲学綱要』に就て（得能生）

第百貳拾九（1913年5月10日）

講演

絶対善…………… 文学士 紀平正美
天文と人事、特に最近の政局…………… 隈本有尚
仏教道德の特色…………… 文学博士 村上專精
人格の内容…………… マスター・オヴ・アーツ 岸本能武太

泰西思潮

幼児の家庭教育（アツディングトン・ブルース）

雑録

本会記事/排日問題の根拠（植原悦二郎）/時局と現代の矛盾（自如子）/女子教育と家事科（宮田脩）/新しい女（捕風生）/『知らんの意志』と桑木博士の『哲学綱要』（愚仏庵主人）

第百参拾（1913年6月10日）

講演

優種学万国大会に就て…………… 文学士 朝永三十郎
東西に於ける新しき女…………… 宮田脩
報恩の理論、凡神教と一神教…………… 文学士 西晋一郎

泰西思潮

社会的沈黙

雑録

第十六回家族会記事（記者）/国体擁護と桐花学会（愚仏庵主人）/波多野宮本両氏共訳オイケンの「新理想主義の哲学」に就て（得能生）/時事問題二束（自如子）/千葉君の『泰西思潮』に就て（得能生）

第百参拾壹（1913年7月10日）

講演

宗教と道徳……………文学士 吉田静致

人格の体と用……………文学士 瀧村斐男

ラブリョーイ教授の『ベルグソン哲学の實際的傾向』

泰西思潮

少年義勇団運動（セシル・プライス）

雑録

本会記事/嗚呼アヴェプリー/任用令改正と適材適所（自如子）

第百参拾貳（1913年8月10日）

講演

現代産業組織の道徳観……………文学士 藤井健治郎

軍国主義……………法貴慶次郎

注目を要すべき英国教育界の二問題……………文学士 八田三喜

閑……………文学士 下田次郎

泰西思潮

オイケンの精神生活の哲学（ライマン・アボット）/訪問教師

雑録

本会記事/結婚の精神的意義（耳袋生）/老朽の心理（自如生）/日本人の人相に就て（旭操生）/桑木博士の『現代の価値』（斗武子）

第百参拾参（1913年9月10日）

講演

岡田式静坐と精神修養…………… マスター・オブ・アーツ 岸本能武太
人生の社会的要素…………… 文学士 三輪田元道
ラブリョーイ教授の『ベルグソン哲学の实际的傾向』

泰西思潮

活動写真の弊害/少壮大学生の社会事業/児童の活動写真同盟/マッシュュー、アー
ノルドの読書/ルーズヴェルトの婦人問題論

雑録

法治国と学治国と哲人（自如庵主人）/翻訳及び之れに関する一二の道德（捕風
生）/深作学士の『山鹿素行に就て』を読む（新井誠久）/女子の大学入学認可問
題（千葉敏蔵）

第百参拾四（1913年9月10日）

講演

現社会の風潮…………… 文学士 深作安文
岡田式静坐と精神修養（承前）…………… マスター・オブ・アーツ 岸本能武太
知識と信仰…………… バチェラー・オブ・アーツ 田中王堂

泰西思潮

活動と長寿/道德教育上の一問題——諸大家の解答

雑録

本会記事/数？質？（蜻蛉生）/新聞紙調（自如庵主人）/偶感（SM生）

第百参拾五（1913年11月10日）

講演

増進しつつある法律家閥…………… 文学博士 三宅雄二郎
我邦現代の社会趨勢と其の救済事業…………… 布川静淵
競争の倫理…………… 文学博士 中島力造

泰西思潮

工業の道徳/婦人運動の趨勢/英国の一社会改良家/公衆は犯罪の協働者

雑録

本会記事/目下の三大問題 (三輪田元道) /佐久間象山先生に就て (加藤弘之) /
文展の隆盛は何の徴ぞ (捕風生) /フランスに於ける一新婦人 (一記者) /井上博
士在職二十五年祝賀会/菊池奨学資金募集

第百参拾六 (1913年12月10日)

講演

利己利他の弁……………文学博士/法学博士 加藤弘之
宗教と教育……………文学士 三輪田元道
宗教の活路……………岡田哲蔵
芸術と道徳……………文学博士 井上哲次郎

泰西思潮

社会改良団の活動/都市児童の農業生活/実務と学校との連絡/心霊者への警告/
近世的聖者/無題録

雑録

所感二項 (紀平正美) /此処に改革の要あり (三輪田元道) /法律家閥を打破する
の急務 (無名氏) /元良博士を懐ふ (中島生) /年限短縮案に就て (自如観人)

第百三十七輯 (1914年1月10日)

講演

哲学の使命……………鹿子木昌信
利己主義と理想主義……………井上哲次郎
学問研究と其普及応用とを区別する必要……………中島力造
宗教の活路 (承前)……………岡田哲蔵

学界回顧録

過去一年間に於ける倫理学界の一瞥（深作安文）/昨年教育界の一瞥（大島正徳）
/宗教界の事実と思想（岡田哲蔵）/我国に於ける経済学の現状（植原悦二郎）

雑録

兵役と教育（桑木巖翼）/男女交際に就て（武者小路公共）/智者不惑（紀平正美）
/「家」といふ觀念（塚原政次）/偶感（法貴慶次郎）/道德政策と迷信（三輪田
元道）/我邦の家庭（西普一郎）/教育修身の實際問題（栗原英之助）/本会記事
/第十七回家族会/故元良博士記念の計画

泰西思潮

忠君愛国の思想と基督教の世界主義（ジー・エフ・パーパー）/文学芸術に於ける
現代の悪兆

（*雑誌番号に「輯」付）

第三百三十八輯（1914年2月10日）

講演

倫理問題としての都市問題…………… 文学博士 藤井健治郎
近世に於ける我の自覚史…………… 文学博士 朝永三十郎
禪宗及び其の研究法…………… 大内青巒

泰西思潮

現代的活模範の一適例

雑録

英国に於ける君主主義と民主主義の調和（植原悦二郎）/海難と遵法の問題（陽
春楼主人）/京大事件（三輪田元道）/武人銭を愛するか/東北の飢饉/読者の声
加藤博士と井上博士（水野克己）/塚原氏の『家』（平沼武則）

第百三十九輯 (1914年3月10日)

講演

- 近世に於ける『我』の自覚史…………… 文学博士 朝永三十郎
禪宗及び其研究法 (承前) …………… 大内青巒
心的浪費と節約…………… 文学士 大島正徳
岡田式静坐に伴ふ身体の動揺に就いて… マスター・オブ・アーツ 岸本能武太

泰西思潮

- 人種改良と政治 (エフ・シー・エス・シラー) /英語に成れる最良書百冊

雑録

- 時局に対する批評 (三輪田元三里) /岩野泡鳴君の表象主義の文学運動を評す (千葉掬香) /大正二年の心理学界に就きて (高島平三郎) /本会記事
(*「読者の声」(省略)の項目登場)

第百四十輯 (1914年4月10日)

講演

- 教育者間に行はるる三謬見を排す…………… 文学博士 藤井健治郎
統計上より観たる我邦婦人の暗黒面…………… 布川静淵
禪宗及び其の研究法 (承前) …………… 大内青巒
時局に鑑みたる教育の刷新策…………… 中島徳蔵

泰西思潮

- 強制結婚に対する女子の反抗

雑録

- 金銭物品の授受と教育者 (嘲俗生) /芝居 (陽春楼主人) /現今の青年の懐ける修養上の疑惑 (菰田万一郎) /掬香氏へ (岩野泡鳴) /記事/政治家の道徳的責任 (蜻洲生)

第百四十一輯（1914年5月10日）

講演

- 思想界の輸入超過……………宮田脩
政治家の徳義……………法学博士 浮田和民
道德の権威……………文学士 速見滉
時局思潮の倫理感……………文学士 大島正徳

泰西思潮

最近仏蘭西文学界の傾向/現在我と潜在我——後者の優秀/模範的資本家/産業界の欠陥と救済

雑録

博覧会と道德（三輪田元道）/恐るべき教育上の一事件（杞憂生）/静坐と平和（耳袋生）/「泰西思潮」所載のベルグソンの論文に就きて（土田茂）（*千葉鉦蔵宛書翰）

第百四十二輯（1914年6月10日）

講演

- 普遍我に就て……………法学博士 筧克彦
実在と道德……………文学士 西晋一郎
オイケンの『現代倫理学』（Present Day Ethics）を読む……………中島徳蔵

泰西思潮

新らしき女ナイチンゲール/新実在論の哲学要領/慈善の矛盾

雑録

今後の教育主義（中島力造）/罪惡（無名氏）/醜類と社会と自己（捕風生）/『東西の相違』か（皓嶽迂夫）/本会記事

第百四十三輯 (1914年7月10日)

講演

- 普遍我に就て (承前) 法学博士 笈克彦
性格の基礎 高島平三郎
精力主義 文学士 下田次郎
人本位の教育 法学博士/文学博士 新渡戸稲造

泰西思潮

女権拡張と男子の野獣性/ベルグソンと世評/モンテッソリー教育法の批評

雑録

祖先崇拜 (加藤弘之) / 自助団に就て (希望生) / 議会の解散 (三輪田元道) / 尾崎法相の失言問題に就いて (瀧村生) / 富豪の面目何所にある (捕風生) / 罪人の家族に対する義務 (城北隠士)

第百四十四輯 (1914年8月10日)

講演

- 近世に於ける「我」の自覚史 文学博士 朝永三十郎
日本仏教の特色を發揮せよ 大内青巒
ベーコンの四像説を想起し我思想界の現状に就いて所感を述ぶ
..... 文学博士 中島力造
人格と静坐 マスター・オブ・アーツ 岸本能武太

泰西思潮

倫理修養協会の目的/富豪の道德的覚醒 (アドラー)

雑録

文学博士会について (五城生) / 考星学と個体自我の永存説 (螺雲道人) / 一面の観察 (自如観人) / 米国に於ける姉崎博士の事業

第百四十五輯（1914年9月10日）

講演

- 欧洲大戦乱と万国平和論……………文学博士/法学博士 男爵加藤弘之
近世に於ける「我」の自覚史……………文学博士 朝永三十郎
人格と歴史……………文学士 紀平正美
戦争と道德との関係……………文学博士 井上哲次郎

泰西思潮

インスピレーション/精神療法は那邊まで有効か/祈祷の健康法

雑録

戦争と倫理（三輪田元道）/鼻呼吸に就いて（耳袋生）/易理一斑（愛亭生）/欧
洲の戦乱と我が思想界（城南生）

第百四十六輯（1914年10月10日）

講演

- ベルグソンの倫理的帰結……………文学士 大島正徳
欧洲戦乱の将来……………隈本有尚
国際の誤解と同情……………文学博士 姉崎正治

泰西思潮

『戦争の収熄』（戦争の哲理）/大戦乱の目的と結果

雑録

本会記事/城南生に告ぐ（桑木巖翼）/時局雑感（皓嶽汪夫）

第百四十七輯（1914年11月10日）

講演

- 倫理学の価値……………文学博士 桑木巖翼
時局と文明の催進……………文学博士 遠藤隆吉
権威の進化……………パチエラー・オブ・アーツ 田中王堂
情死の研究及び其倫理的観察（上）……………布川静淵

泰西思潮

我等の探りし正しき道 (ルユドルフ・オイケン) /ベルンハルヂの戦争観/エール
宗教大学の改革/戦時社会主義者大会/狼の嘆願/勿れ/対照

雑録

本会記事/米国宗教家の社会的教育的活動 (吉田熊次) /考星学か占星術か (八田
生) /醜業婦の問題 (SM 生)

第四百四十八輯 (1914 年 12 月 10 日)

講演

中立国々民に訴ふる交戦国々民の道徳的主張 (上)

…………… マスタア・オブ・アアツ 千葉鉦蔵
戦後の我れ等 …………… 文学士 瀧村斐男
自我の徹底 …………… 中島徳蔵

泰西思潮

戦争と禁酒/大戦乱に対する世界の論調/スラブ魂とチュートン魂との比較

雑録

記事/時局に対するオイケン教授の意見に就て (西普一郎) /学者の態度は此の如
き乎 (隈本有尚) /国民性の二重人格 (自如庵主人) /三大主義の鼎立 (三輪田元
道) /時局と特殊教育 (佚名氏)

第四百四十九輯 (1915 年 1 月 10 日)

講演

道徳の三階級 …………… 法学博士/文学博士 加藤弘之
自覚の語は問題を解決せず…………… 文学博士 三宅雄二郎
思想上の国産奨励論に就て…………… 文学博士 朝永三十郎
中立国々民に訴ふる交戦国々民の道徳的主張 (中)
…………… マスタア・オブ・アアツ 千葉鉦蔵
思想界に於ける非国家主義の源泉…………… 文学博士 吉田熊次

家庭と人物の出現……………文学博士 中島力造

泰西思潮

トライチケ（ジー・エイチ・モルガン）

雑録

英人の見たる宗教と愛国（西晋一郎）/別種の印象主義（吉田静致）/歐洲戦乱後に起るべき問題（宮田脩）/日本善の主張（三輪田元道）/国家的訳場開設の議（榴丘学人）/道德の芸術性に就いて（瀧村斐男）/関心（溝淵進馬）/昨年 of 哲学界の印象（宮本和吉）

第百五十輯（1915年2月10日）

講演

英独思想の特徴を論ず……………文学博士 藤井健治郎

日本人の国産侮辱……………内堀維文

独逸思想と軍国主義……………文学博士 朝永三十郎

情死の研究及び其倫理的觀察（中）……………布川静淵

泰西思潮

万国倫理協会の倫理運動（友枝高彦）

雑録

本会記事/昨一年間の我倫理学界の回顧（深作安文）/求むること失ふこと（大島正徳）